

知的障害を伴う自閉症の早期教育（幼稚園・小学部）を実施する他、特別支援学校の教育課程や自立活動の指導法等に関する研究を行う

筑波大学附属 久里浜特別支援学校

横須賀のバリアフリー子育て情報局
sukasuka-ippo
<http://www.sukasuka-ippo.com>
 発行責任者 / 五本木 愛 編集 / 竹島



筑波とか久里浜養護などと名前を耳にする機会は多かったものの、実際のところはよくわからないまま、その募集人数の少なさや研究所という響きから秘密のベールに包まれた存在としてあまり触れてはいけない場所なのかなと思っていましたが、今回、取材（学校見学）をさせていただいてその印象はガラリと変わりました。壁を作っていたのはわたしたち、久里浜特別支援学校はむしろ情報をととてもオープンにしていたのです。興味深いお話をたくさん伺ったので、その取材内容を記事にまとめてみたいと思います。

■文部省管轄の国立久里浜養護学校&研究所としてスタート

それまでは障害種ごとの発達のみが研究されていましたが、昭和48年の設置当初からこちらでは重度・重複障害児を対象にした教育研究を行い、必要な環境やカリキュラム、教員の資質を研究し、指導法の開発等を行い、その成果を全国の養護学校（現特別支援学校）等に広めてきました。30年にわたる研究の末、十分な成果を得られたということで平成16年にその役割を終え、国立久里浜養護学校から全障害をフォローできる唯一の研究機関である筑波大学の附属に移管され、その教育・研究の対象を知的障害を伴う自閉症児に転換し、今年で12年目を迎えました。（2016.05現在）

■6名のクラスに先生は3名って手厚いの!?

子ども2名に対して職員1名。各クラス定員が6名なので、職員は1クラス3名配置されます。これを聞いて思わず「子ども3人につき職員1名のひまわり園より手厚い!」と声が上がりましたが、副校長先生のお話によるとそんなことはないのだと。というのも、こちらは教員を育成する任も負っているため、配置される先生の内訳をみると、大学採用のベテランが1名、3年間の研修期間の2年目になる教員が1名、新人が1名となっているのだそうです。

■今後、定員を増やす予定は?

それは「ない!」とのこと。研究テーマに合わせた子を選ぶことも、また軽度な子ばかりを集めることもない。特性がそれぞれ違う自閉症のお子さんのひとりひとりの実態に合わせた教育を重視しているため、あえて同じ障害特性のお子さんを集めて集団にする必要はないのだとか。これはちょっと目からうろこでした。

■募集人数は? 選考方法がじゃんけんってホント!?

幼稚園部（3~5歳）、小学部（6~11歳）までの各学年の定員は6名。幼稚園入園時と小学部入学時にそれぞれ募集が6名と狭き門ではありますが、例年出願の倍率は幼稚園部で1.5~2倍、小学部では3倍程度。小学部の選考を例にとると18名が出願し、その後、お子さんの行動観察、保護者と面接、校医による診断などを経て、12名まで絞り（軽度の場合は支援級への進学をご提案することも）、その後はじゃんけん...ではなく、くじ引きで最終的に6名が決まるそうです。とにかく公平性は絶対! 幼稚園から小学部へ上がる際も優遇措置は一切なく、出願者は全員同条件で選考されます。なお、在籍人数が少ないためPTAの役員はやはりどうしても保護者の皆さんにお願いすることになるとのことです。

■遠方のお子さんは寄宿もあり。保護者の思いが詰まった壁画や図書室、宿泊学習ができるゲストルームも必見。

寄宿は6名受け入れ可能で現在は5名が利用。週末は自宅に帰りますが、それ以外はこちらで生活をしています。

2年前に保護者が作った図書室「おひさま文庫」はくつろげる空間で子どもたちにも大好評!

その他、宿泊の練習ができる部屋も完備。年に最低1回は宿泊学習を行い、例えばお風呂や掃除体験をしたり...。特に普段見ることのできない入浴の様子などを教員が観察することで課題を見つけ、家庭にフィードバックすることも目的のひとつなんだとか。

また今夏は組み立て式の大型プールも設置予定です!



主に父親と兄弟描いた迫力満点のくじらの壁画!

2年生のクラスを見学! ホールを使った活動。



2年前に保護者が作った図書室。蔵書は1000冊以上、大型絵本や電子書籍もあり、子どもたちにも好評!

目の前に広がる海! 最高のロケーションに海外から視察に来られた方は驚かれるのだとか。確かにきれい...



■世界からも注目される知的障害を伴う自閉症教育&研究

教員免許取得のための講座を受け持つほか、毎年多くの国と地域から視察を受け入れています。横須賀市内でも養護学校から毎年研修を受け入れたり、障害福祉課からオーダーを受けて事業所向けに講演を行ったり、また支援級の教員向けの研修や教職員向けの公開セミナーも定期的に開催されています。

■閉鎖的なんてとんでもない! 誰でも教育相談受けられます。

各種団体や自治体レベルでなくてももちろん大丈夫! こちらは、0歳から12歳までの障害のあるお子さんの教育や養育に関する支援や助言にも力を入れています。直接、来校しての相談はもちろん、電話やEメールでの相談にも応じてくれるんだとか。専門機関ならではの見立てやアドバイス、そして就学時の進路決定のセカンドオピニオンを求めるなど、まずはお子さんについての困りごとを聞いてもらうことができます。心強い相談相手になってくれるのは今回、私たちに校内を案内してくれた副校長先生です。とっても気さくで、きれいごとばかりではない障害児教育の裏側についても色々興味深いお話をたくさん聞くことができました!

■sukasuka-ippo 隊長・五本木愛の視点

筑波大学附属特別支援学校は、地元である私でもほとんど実体を知ることのなかった場所。校内や授業風景などを公開していることに驚きました。創立当初は身体、聴覚、視覚障害等を重複しているお子さんの学校だったそうで、バリアフリーの配慮が各所に見受けられました。

横須賀市にこれだけの専門機関があるということは実に喜ばしいこと。横須賀市の支援級や養護学校とのより密接な連携が実現すれば、障害児教育のノウハウや情報が広く浸透し、障害児がそれぞれの障害特性に応じた適切な指導法とカリキュラムで学校教育を受けられるようになるのではと期待が膨らみます。



■筑波大学附属久里浜特別支援学校の基本情報

〒239-0841 神奈川県横須賀市野比5丁目1番2号
 TEL / 046-848-3441 (代表) FAX / 046-848-3740
 詳しくはホームページで! 日常のトピックについても配信中です。
 またドラマのロケなどの利用も多いこちら、ロケ情報にもご注目!
<http://www.kurihama.tsukuba.ac.jp>

【学校見学・お子さんの発達に関する相談について】

日時 / 各学期の毎週火曜日・木曜日の午前10時頃から
 申し込み / あらかじめ当校副校長 (TEL / 046-848-3444) 宛に照会のこと

※入学を視野に入れた見学は上記の曜日以外も相談に応じます。